

日本生体医工学会 平成29年度第6回理事会議事録

日時：平成30年5月30日（水） 14：00～17：00

会場：コンベンションホールAP東京丸の内 3階 H+Iルーム

<出席者>

理事長： 杉町 勝

副理事長： 大城 理（兼関西支部長・遠隔出席），山家 智之

理事： 佐久間 一郎（兼関東支部長・遠隔出席），中村 真人（兼北陸支部長），橋爪 誠，花房 昭彦，松本 健郎，村垣 善浩，守本 祐司，石原 謙（兼中国四国支部長），川田 徹，木村 裕一，黒田 知宏（遠隔出席），佐藤 嘉伸，野村 泰伸，平田 雅之，松田 哲也

監事： 澤 芳樹

<オブザーバー・出席者>

幹事： なし

オブザーバー： 磯山 隆（事務局長），伊良皆 啓治（九州支部長），岡本 英治（第57回大会長），生田 幸士（第58回大会長・新理事候補），成瀬 恵治（第59回大会長・新理事候補），椎名 毅（第60回大会長），中島 一樹（新理事候補），松村 泰志（新理事候補），横澤 宏一（新理事候補），中沢 一雄（新監事候補），朔 啓太（若手研究者活動WG）

<欠席者>

監事： 牧川 方昭，吉田 正樹

幹事： 京相 雅樹，原口 亮

<配布資料>

資料 29-6-2-1 平成29年度第5回理事会議事録

資料 29-6-2-2 みなし理事会議事録

資料 29-6-3 平成29年度第6回理事会入退会審査対象者

資料 29-6-4-1 若手研究者活動WG報告

資料 29-6-4-2.1 YIAに関する理事会報告資料 YIA 選考結果

資料 29-6-4-2.2 YIA 工学系得点詳細・医学系得点詳細

資料 29-6-4-2.3 YIA 参考資料 選考結果通知メールの雛形

資料 29-6-4-3 若手研究者活動WG 第2回講演会開催報告書

資料 29-6-4-4 日本生体医工学会平成30年度サマースクール 予算案修正

資料 29-6-5 臨床研究法WG

資料 29-6-6	学会支援クラウドサービス G-INGS
資料 29-6-7-1	荻野賞の今後
資料 29-6-7-2.1	日本生体医工学会における選奨に関わる報告書（日本生体医工学会九州支部 研究奨励賞）
資料 29-6-7-2.2	日本生体医工学会における選奨に関わる報告書（生体医工学シンポジウム 2017 ポスターアワード）
資料 29-6-7-2.3	日本生体医工学会における選奨に関わる報告書（生体医工学サマースクール 2017 アワード）
資料 29-6-7-2.4	日本生体医工学会における選奨に関わる報告書（2017 年度日本生体医工学会北陸支部大会「研究敢闘賞」）
資料 29-6-7-2.5	日本生体医工学会における選奨に関わる報告書（2017 年度日本生体医工学会北陸支部大会「研究奨励賞」）
資料 29-6-7-2.6	日本生体医工学会における選奨に関わる報告書（2017 年度日本生体医工学会北陸支部大会「優秀論文発表賞」）
資料 29-6-7-2.7	日本生体医工学会における選奨に関わる報告書（生体医工学シンポジウム 2017 ベストリサーチアワード）
資料 29-6-8-1	日本生体医工学会甲信越支部長 推薦書
資料 29-6-8-2	日本生体医工学会北陸支部長 推薦書
資料 29-6-9	第 57 回大会準備報告
資料 29-6-12	医学科 ME 教育 WG
資料 29-6-13	生体医工学シンポジウム WG
参考資料	正味財産増減計算書内訳表

1. 理事会成立の件（総務）

杉町理事長より 15 名の出席が報告され、定款第 34 条に基づき、理事会成立が宣言された。

2. 議事録確認の件（総務）

（1）前回議事録承認の件

杉町理事長により、資料 29-6-2-1 に基づき、前回議事録の確認が行われ、原案通り承認された。

（2）みなし理事会議事録承認の件

松本理事により、資料 29-6-2-2 に基づき、説明があり、原案通り承認された。

荻野賞	該当なし
研究奨励賞・阿部賞受賞	講演者名: 徳毛 悠真 広島国際大学 講演演題: ラット骨格筋のパルス波刺激による 4 型グルコース輸送体およびモータータンパク質の遺伝子転写レベルの上昇
	講演者名: 榛葉 健太 東京工業大学 講演演題: 膜タンパク質の機能評価に向けたゲル支持二重膜パターンニング法の開発
	講演者名: 山本 詩子 京都大学大学院 講演演題: カーネル法を用いた弾性体の部分観測情報に基づく変形推定
新技術開発賞	候補者: 上島一夫 開発技術名: 心電計則ウェアラブル電極布「テクノセンサーER」 開発期間: 平成 25 年 7 月 – 平成 29 年 11 月
論文賞・阪本賞	論文名: Identical Dependence of Dialysate-side Mass Transfer Coefficient on Reynolds Number Using Dimensionless Correlation Based on the Mass Transfer Model in Newly Developed Dialyzers and a Downsized Dialyzer 著者: Makoto FUKUDA, Koki NAMEKAWA, Kiyotaka SAKAI 掲載号: Advanced Biomedical Engineering (ABE), Vol.5, pp. 118-123

3. 入退会状況の件（会員）

資料 29-6-3 により状況の確認が行われた。

4. 決算書案（財務）

村垣理事により、参考資料に基づき、決算書案の説明が行われた。会計監査の完了後に、最終決算書をみなし理事会で承認、学術集会時の 6/19 理事会で確認、6/20 の総会で承認していただく予定であるとの説明があった。

5. 若手活動 WG の活動状況（若手活動 WG）

（1）メンバーの追加について

朔オブザーバーにより、資料 29-6-4-1 に基づき、メンバーの追加について説明があり、承認された。

（2）YIA について

朔オブザーバーにより、資料 29-6-4-2.1～2.3 に基づき、YIA の選考結果について説明があった。石原理事より得点の標準化に関する質問があった。また、医学系と工学系で分けずに採点したほうがよいのではないかとのコメントがあり、次回以降検討することになった。

(3) 講演会事業について

朔オブザーバーにより、資料 29-6-4-3 に基づき、第 2 回講演会の開催報告があった。

(4) サマースクール

野村理事により、資料 29-6-4 に基づき、サマースクールの予算案の修正について説明があり、承認された。

6. 臨床研究法への対策について（臨床研究法 WG）

木村理事により、資料 29-6-5 に基づき、臨床研究法の検討点、臨床研究法 WG の活動の現状、厚生労働省訪問、学会としての対応策の説明があった。黒田理事より、訪問の際、日本生体工学会が新法の下で生体医工学研究を適切に行うためのガイドラインを作ることを提案したところ、厚生労働省から協力できるとの言があったことが報告された。

野村理事より「医行為」の判断について質問があり、厚生労働省が個別に問い合わせるよう求めていることなどが報告された。また、外国との共同研究の場合はどうなるのかとの質問があった。また、学会から認定臨床研究審査委員会に医療機器に関する専門委員を派遣するなどの施策が必要ではないかとの発言があった。

議論の結果、安全性の確保についての合理的な説明を準備せずに厚生労働省に問い合わせるのは、いたずらに判断を厳しくさせるだけであるので、早急に安全性について検討する必要があることが認識された。本件に関しては引き続き検討することになった。

7. 選奨について（選奨）

(1) 荻野賞の今後について

松本理事により、資料 29-6-7-1 に基づいて説明があり、名称を「臨床応用研究賞・荻野賞」にすることが提案され、承認された。

賞金は 50 万円のままで基金を取り崩すことが提案されたが、石原理事より基金をファンドで運用することの提案があり、今後も検討していくことになった。なお、日本光電の元役員の方から 50 万円の寄付があり、また今回荻野賞の該当が無かったことから、基金の取り崩しまでに 2 年の猶予があることが確認された。

(2) 日本生体医工学会における選奨に関わる報告

松本理事により、資料 29-6-7-2.1～2.7 に基づき報告があった。

8. 支部長の推薦（支部）

杉町理事長により、資料 29-6-8-1、29-6-8-2 に基づき説明があり、甲信越支部長として堀潤一先生、北陸支部長として鈴木亮一先生が推薦され、承認された。

9. 第 57 回大会準備状況について

岡本第 57 回大会長により、資料 29-6-9 に基づき、第 57 回大会の準備状況について説明があった。大会ありかた委員会の記載漏れがあった。抄録集のダウンロードについて議論があり、6/15 に会員にパスワードを送付することになった。

10. ME 研究推進について (ME 研究推進)

橋爪理事により、医工学専攻科・学部の増設について関連学会で趣意書を作り、どこに働きかけるかの話し合いを続ける旨の報告があった。

11. 電子投票システムについて (選挙管理)

川田理事により、学会支援機構の持つ電子投票システムについて説明があった。電子投票に切り替えた場合、定款の変更が必要かどうか確認することになった。サーバーがダウンしても記録が残るか確認しておくことが必要との発言があった。早期に導入できるようなら、次の評議員選挙から導入することも視野に入れて検討することになった。

12. ME 教育 WG の委員について (ME 教育 WG)

平田理事により、テキスト作成に関わる ME 教育 WG の委員次期候補について、非会員の先生にも会員になっていただくことをお願いするが、固辞された場合は非会員のままでよいことが承認された。橋爪理事より江藤正俊先生、村田正治先生のご紹介があった。また非会員のままの場合、学術集会中の委員会出席にかかる旅費・宿泊費の支出は差支えないことが承認された。

13. 生体医工学シンポジウムの講師謝金について (シンポジウム WG)

木村理事により、資料 29-6-13 に基づき説明があり、生体医工学シンポジウム 2018 の AI 実習について会員である講師の先生に、シンポジウム WG の委員会活動としての謝金を支払うことが承認された。

14. 学会大会運営改善案の検討状況 (大会あり方委員会)

生田第 58 回大会長により、資料 29-6-6 に基づいて説明があり、学術集会の事務作業のうちで継続的に同じ仕組みを使用できる部分の支援について、3 社を比較検討したところ、実績、費用などの点から G-INGS が良いのではないかと提案があり、関東支部大会で試用する旨の報告があった。現場のオーガナイズは含まれないので、その部分については大会ごとにローカルの会社を使う必要であるとの説明があった。うまくいくようであれば、来年の大会から使う方向で検討することになった。学会から G-INGS に個人情報を入力することにより、会員は毎回の登録時に情報を入力する必要がないようにできるが、個人情報の取り扱いに係るものであるので慎重に検討することになった。

なお、大会の記録は抄録（全件）・予稿（希望者のみ）の混在となっており事務作業が煩雑であるとの指摘があった。予稿の提出を必須としない理由は発表内容の論文投稿を勧奨することであるが十分な効果を上げていない。意見の分かれる点であるので継続して検討することとした。